

令和6年度S-TEAM教育推進事業「s-team」推進プロジェクト 授業改善等セミナー

実践発表・研究協議

札幌琴似工業高校定時制課程における

すべての生徒の発達を支える教育活動

特別支援教育 コーディネーター・通級指導 教諭

渡邊典代 (わたなべのりよ)

令和6年9月27日(金)
札幌琴似工業高等学校 1F会議室
10:00~15:50

Ⅰ 本校の概要

- ・1962年（昭和37年）札幌琴似工業高等学校開校
- ・1966年（昭和41年）定時制課程
機械科・電気科各1学級を併置
- ・1993年（平成5年）定時制課程
電子機械科 新設
- ・2023年（令和5年）創立60周年



○学校教育目標

- 1 豊かな心を持ち、たくましく生きる人間を育てる。
- 2 広い視野をもち、環境を守り平和を愛する人間に育てる。
- 3 創造的な能力と専門的な知識をもち、社会に貢献できる人間を育てる。

○ スクールミッション

郷土を愛するとともに地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成

○ スクールポリシー

主体的に学び、意欲的に取り組む、自立するため、社会の変化に対応する、学習環境、個別、集団、生活習慣、進路意識etc・・・

○令和4年度→令和6年度の本校の生徒の質の変化(仮説)

(1) 小中学登校しぶり生徒が 学級から保健室、別室登校へと移行していた生徒が

- ① 精神科へ通院
- ② 通級指導教室
- ③ 診断のある生徒、手帳を持つ生徒へ移行

特性の自己理解がすすむ

通える学校・わかる授業

(2) その他の支援や配慮を受けてきていない生徒

- ① 中学校ではギリギリ支援対象にならない、調べたら何らかの結果が出るかもしれない生徒
家庭では発達に関して気にかからない生徒 (ネグレクト、ヤングケアラー、多兄弟児含む)
- ② 本校に集まる生徒は、中学校では内向的、おとなしい生徒
中学校側は、「集団は苦手そうだが定時ならやっていけるかも」と促す担任の話を聞いて
「そうかな」とあまりこだわりもなく、素直に考える生徒・昼夜逆転している生徒
保護者も「昼間の学校、制服のある学校」にこだわらないなど

※ 工業高校の認識に変化・多様な学びに対応する職業指導を行う定時制への関心が高まる。

2 生徒の実態把握

○先生を知る

今までの先生のかえ方を知る

ここは高校だから。特別支援は、特別支援学校でやってくれたらいい・・・ の向こう側にきもち。

今までの学校のやり方を知る

昔はこうやってきたし・・・ の向こう側のきもち。



2 生徒の実態把握

○生徒を知る

生徒と対話する

どうして中学校にいけなくなったのか思い出せないし、高校は行かないといけなかった。勉強は苦手だし、おしゃべりもうまくできないし。友達はほしいけど失敗するのが不安だし……いつも困っています。

生徒の困りを知る

アルバイトの週6日行っています。学校には行こうとしてるけど、疲れて気がついたら寝ていて学校に遅刻してしまいました。実はアルバイトをやめたいけどなかなか言いたせないんです。



2 生徒の実態把握

○ 校内委員会の役割を知る

生徒の見え方を知る

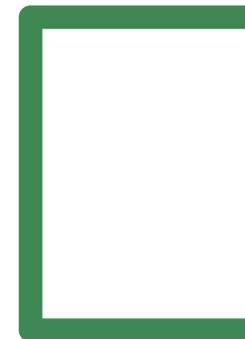
遅刻しない。休まない。→ 高校生にもなって・・・だらしない。

先生の考え方を知る

あいつはだめだ。怠けてやらないんだ。担任がちゃんと指導しないから悪いんだから。

反省していることを、作文用紙に書きなさい。できない生徒に、もう少しあと2行書きなさい。

反省していると記録に残らない。指導が入らない。どうしてだ！？



3 生徒を支える

○ できること

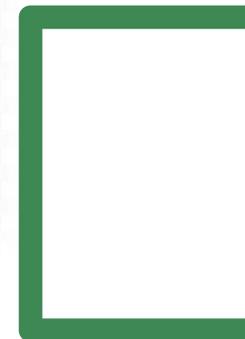
家庭科の授業、通級による指導、LHRの活用、校内職員研修、資料収集

○ 今はまだできないこと

学校全体支援体制の構築、通常学級にいる生徒の支援の糸口を探る

○ これから実現させること

学校全体支援体制の構築、個別支援から少人数支援と集団支援



3 生徒を支える

○ そのとき自分にできたこと

- 1 家庭科授業で生徒を把握する (R3、4年度担当)
- 2 通級に関わる職員研修 (R3・6月～年3～4回実施している)
- 3 通級指導で個別の教育支援計画と
個別の指導計画を作成する (10月～通級開始)
- 4 LHR活用 (自殺予防教育高校生ステップアッププログラム)

3 生徒を支える

○LHR活用（自殺予防教育高校生ステップアッププログラム）

本校の目的

- (1) 人間関係を形成する力を育てる。
- (2) 援助希求的態度やストレス対処能力を育てる。
- (3) 自己肯定感を醸成し、社会の変化に対応する資質・課題解決能力を向上させる。



3 生徒を支える

4 先生を支える

○ R3でできること

子ども理解支援ツール
の活用と実施

SCによる
「心の授業」とアサーション

SCによる
個別カウンセリング

外部教材による研修

SSWによる子どもが抱える問題と

学校と家庭の連携について



SDGs



3 生徒を支える

4 先生を支える

○ R4でできること

子ども理解支援ツール
ほっとプラス2回実施

高大連携SSWによる
自己理解他者理解GW

SCによる
「心の授業」とアサーション

高大連携SSWによる
レジリエンスGW

SCによる
個別カウンセリング

教員研修札幌学院大学教授
高大連携発達障がいを背景と
する生徒への接し方



3 生徒を支える

4 先生を支える

○ R5でできること

HYPERQ-U実施(2~4年)

テストバッテリー検査実施
(1年)

Google気持ちアンケート
SEL(社会性と情動調査)

生徒全員面談週間

職員研修 札幌学院大学教授
による発達障がいの特性④

北星学園大学教授3年
自己理解・他者理解

Google学校生活アンケート
(学習のつまずき調査)

はたらく 外部人材活用



SCによる
個別カウンセリング

- ① 人間関係を形成する力
- ② コミュニケーション能力を育む力
- ③ 悩みや気持ちの変化に気付く力
- ④ 自らの困りごとを相談できる力

令和6年度「琴定 WORK-WORK(ワクワク)」実施計画

1 実施目的

人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の向上、悩みや不安の心の変化に気づき、自ら相談できる力を付けることを目的とする。生徒が生涯にわたって社会参加し、一人ひとりが未来に向かって前進する能力を身に付け、身体的に健康であり続けるために、予防的、開発的な視点に基づく心理的教育を実施する。これらの教育活動は、生徒の学び(WORK)と生徒の発達を機能させる(WORK)取組としている。

2 実施期間と実施内容

・令和6年度33時間実施(実務把握、学習アンケート2h、生徒面談6h、生徒検査2h、高大連携3h、YOUTH+ワーカー2h、職員研修3h、「はたらく」外部人材活用15h)

3 実施内容

| 実施月日 | 対象 | 実施内容 |
|-----------|-------|---|
| 4月 4日(水) | 1学年 | WORK-WORK 生徒の実務把握調査共有 |
| 4月17日(水) | 1学年 | テストバッテリー生徒自己理解調査実施 |
| 4月24日(水) | 全学年 | WORK-WORK 学校生活(学習)アンケート実施 |
| 5月 8日(水) | 全学年 | WORK-WORK 学校生活(きもち)アンケート実施 |
| 6月 5日(水) | 2学年 | 2年「はたらく」ハローワーク職業講話 |
| 6月 5日(水) | 4学年 | 4年「はたらく」アルバイト情報社 しごとの参考書①「就職・進学に向けて必要なことは？」 |
| 6月 5日(水) | 1学年 | 1年「はたらく」アルバイト情報社 しごとの参考書②「将来のこと、学校生活のこと」 |
| 6月12日(水)～ | 全学年 | WORK-WORK 生徒全員面接選抜① |
| 6月12日(水) | 2～4学年 | WORK-WORK HYPER Q-U 検査®の実施 |
| 7月 3日(水) | 4学年 | 4年「はたらく」ハローワーク職業講話 |
| 7月17日(水) | 4学年 | 4年「はたらく」紳士服メーカー「身だしなみ講座」 |
| 8月22日(水) | 職員研修 | WORK-WORK 予防教育高大連携札幌学院大学「高校生の発達障がい」 |
| 8月28日(水) | 3学年 | 3年「はたらく」法教育 法務局「インターネット上の人格問題」 |
| 8月28日(水) | 2学年 | WORK-WORK 予防教育⑤高大連携北星学園大学「自己理解・他者理解」 |
| 9月18日(水) | 1学年 | WORK-WORK 予防教育①Youth+「ユースワーカーについて」 |
| 9月18日(水) | 2学年 | 2年「はたらく」法教育 法務局「いじめ」 |
| 10月9日(水)～ | 全学年 | WORK-WORK 生徒全員面接選抜② |
| 10月23日(水) | 4学年 | 4年「はたらく」労働局「はたらく」ワークルール |
| 10月23日(水) | 3学年 | WORK-WORK 予防教育③高大連携北星学園大学「アサーティブコミュニケーション」 |
| 10月30日(水) | 1学年 | 1年「はたらく」アルバイト情報社「企業講話①」 |
| 11月6日(水) | 1学年 | 1年「はたらく」アルバイト情報社「企業講話②」 |
| 11月6日(水) | 4学年 | 4年「はたらく」予防教育②Youth+「ユースワーカーについて」 |
| 11月20日(水) | 2学年 | 2年「はたらく」アルバイト情報社「企業講話③」 |
| 12月4日(水) | 職員研修 | WORK-WORK 予防教育特セン「発達障がいへの生徒理解」 |
| 12月4日(水) | 4学年 | 4年「はたらく」財務局 将来の金融教育の基礎知識 |
| 1月29日(水) | 1学年 | 1年「はたらく」札幌市消費者センター「契約につよくならう」 |
| 1月29日(水) | 2学年 | 2年「はたらく」アルバイト情報社「企業講話④」 |
| 2月5日(水)～ | 全学年 | WORK-WORK 生徒全員面接選抜③ |
| 2月21日(金) | 職員研修 | WORK-WORK「通観のまとめ」 |

5 個の学びから協働の学びへ

琴似工業高校定時制課程における

すべての生徒の発達を支える教育活動

MARK-WORK(協働的な学び)

スクールポリシー

自己実現

- ① 個性の発見とよさや可能性を伸長する。
- ② 社会的資質・能力の発達を支持する。
- (2) 学習内容
 - ① 将来、幸せに生き続けるために必要となる土台づくりをする。
 - ② 本人のなりたい自分を実現するために学ぶ。
- (3) 対象 全校生徒

社会参画

- 2 はたらく
- (1) 目的
学校生活に必要な力や将来の社会生活に必要な力を学ぶ。
 - (2) 学習内容
 - ① 自分の将来について考える機会とし、進路実現への可能性を広げる。
 - ② 地域の資源や人材を活用し、はたらくことに特化したプログラムを行う。
 - (3) 対象生徒 全校生徒

人間関係形成

- 3 琴定 WORKs(少人数の学び)
- (1) 目的
心理的安全性を高め、相談しやすい環境を作り、生徒の願いを具体化する。
 - (2) 学習内容
生徒の自己実現に近づけるために必要な内容について学ぶ。
 - (3) 対象 全校生徒
 - ① ハイパーQU(学校生活における意欲や満足度を図る)やテストバッテリー(生徒自己理解、学校の不適応が深刻になる前の兆候を把握できる)の結果をつけ、注意や支援が必要な生徒、本人希望のある生徒
 - ② 通級指導生徒

自己理解

コミュニケーション

- 4 通級による指導(個別最適な学び)
- (1) 目的
 - ① 自己を知り、卒業後の進路に向けた「自立」を促す。
 - ② 本人の願いに合わせて目標を設定し、自己を振り返りながら主体的に行動できる力を育てる。
 - ③ 他者に興味関心を持ち、個別から協働の学びのコミュニティーに広がりを持つことで社会性を学ぶ。

法務局 人権教育 インターネットのトラブル



卒業後の生活に起こりそうな事例を
具体し、生徒の理解度に合わせて展
開している。

6 学校全体支援体制

札幌市消費者センター 契約について



SSW 学校とSSWの連携

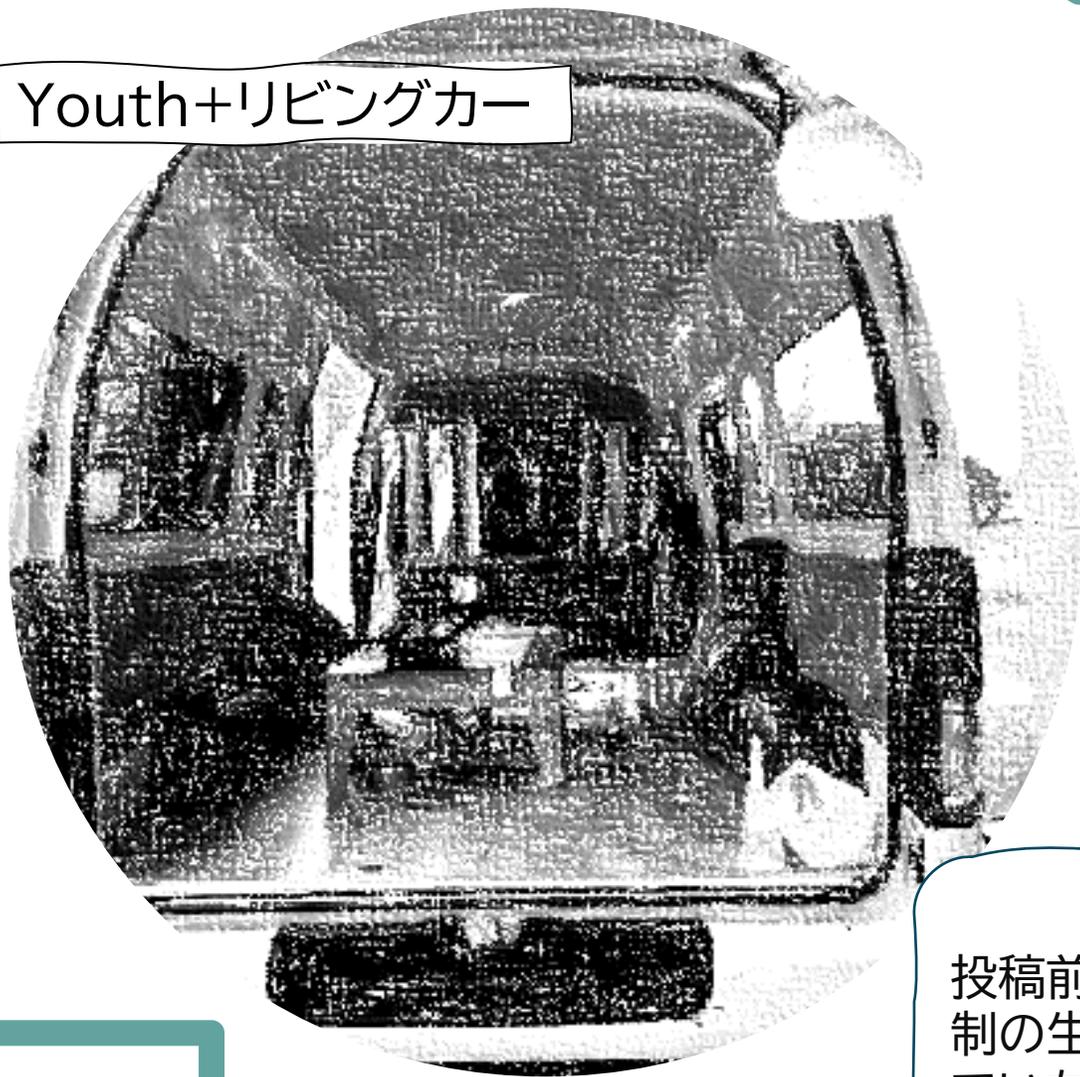


アルバイト情報社 仕事しらべ



職員研修を年3回から4回実施している。テーマはさまざま。この日は、SSWと連携した生徒事例の裏側をのぞいた研修内容に。

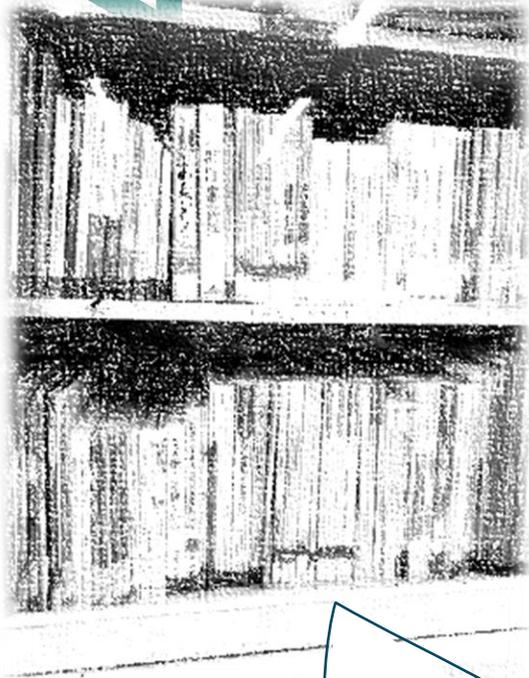
Youth+リビングカー



Youth+ 琴工カフェ

投稿前の生徒に声をかけてほぼ定時制の生徒にワッフルと麦茶の提供していただいた。

生徒全員面談週間



教員が特別支援教育に触れやすいように特設の図書コーナーを設けている。(弘済会より図書費をいただいている)

琴定図書館オープン



令和6年度S-TEAM教育推進事業「s-team」推進プロジェクト 授業改善等セミナー

少人数 琴定WORKs 企業見学のしかた

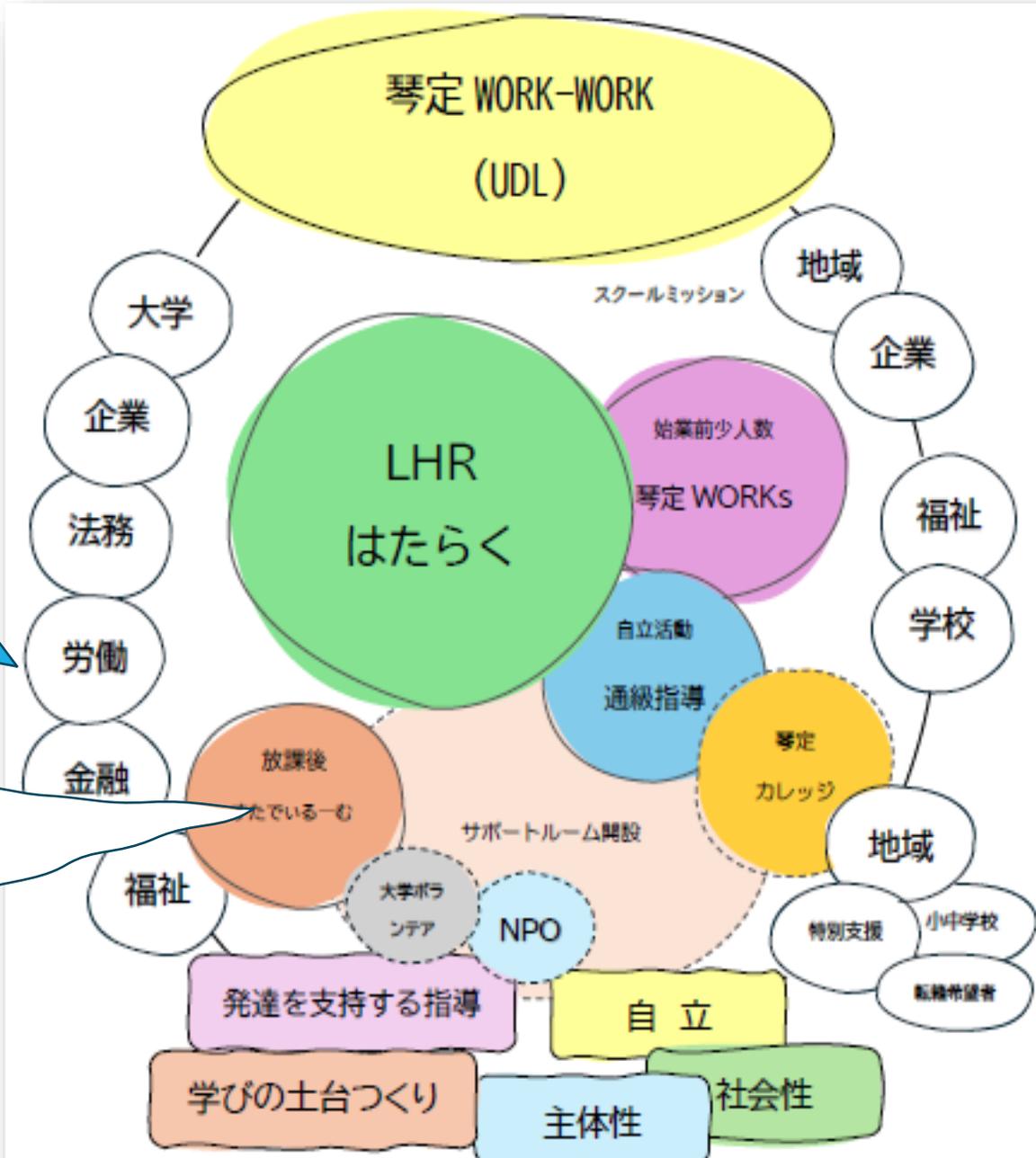
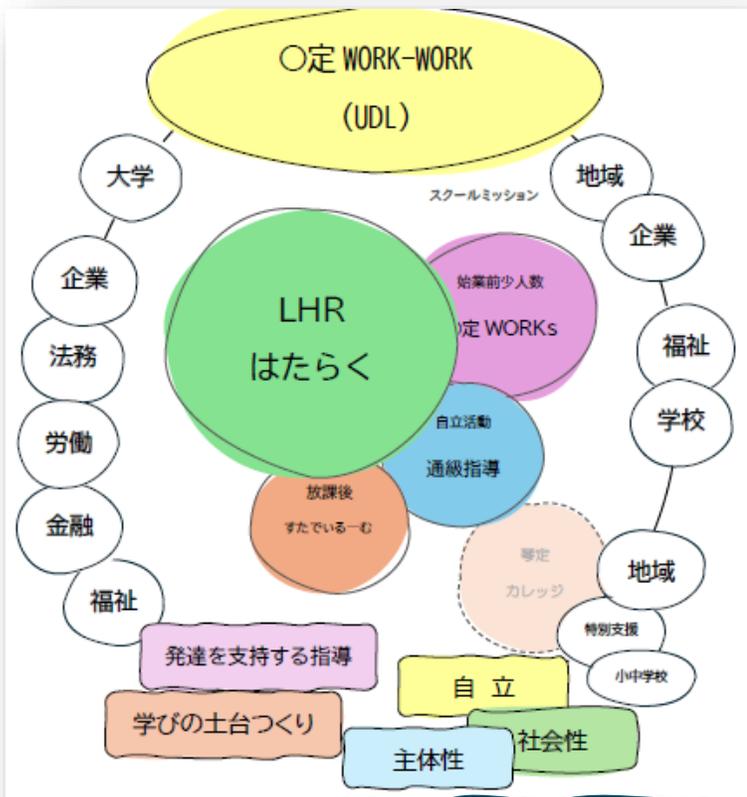


北星学園大学 教授
自己理解からの他者理解へつなぐコミュニケーション



すべての活動でPDCAを行い、生徒の意見や興味に耳を傾け、職員で共有しながら次の計画・改善に生かしている。

令和6年度S-TEAM教育推進事業「s-team」推進プロジェクト 授業改善等セミナー



こんなふうにしたい。なりたい。
 こんなふうになったらすてき。
 ということをいろんなところで言葉に
 することが大切。
 すると、行動が変容してくる。
 仲間を信じることもとても大切。